

イチゴ育苗期におけるイチゴ寄生ハダニ類に対する土着天敵の発生状況

高田裕司（長崎県農林技術開発センター）

〔背景・ねらい〕

長崎県で主に栽培されているイチゴ品種「さちのか」では、ハダニ類が発生しやすく安定生産の妨げとなっている。また、ハダニ類は化学薬剤に対し短期間に薬剤抵抗性を獲得しやすいため、常に有効薬剤が不足している。そのような中、本県では本圃期（9～5月）において、天敵農薬のカブリダニ類を利用し化学薬剤に過度に依存しない防除体系が生産現場で普及してきている。しかし、育苗期（4～9月）においては、天敵等を利用した防除体系が十分検討されておらず、化学薬剤に頼った防除体系となっている。そこで、育苗期の土着天敵を活用した防除法を確立するため、イチゴ寄生ハダニ類に対する天敵の発生状況を明らかにした。

〔調査方法〕

ペットボトル（2L）を利用してイチゴ苗（品種：さちのか）を植え込み、インゲンで飼育したカンザワハダニ（成虫～若虫）を株当たり100頭以上接種したものをトラップとし（図1：熊本農研セ考案トラップ）、それを約7日間所定位置に設置し、イチゴ苗に定着した土着天敵を目視により、種類ごとに計数した。

調査場所は、県内主要イチゴ産地（9地域）から育苗圃場を各1か所選出し、その近辺にトラップを設置した（図2）。調査は2009年は8、9月、2010年は8月、10月の年2回実施した。また、土着天敵の発消長を明らかにするために、長崎農技センター敷地内（諫早市、大村市、雲仙市）に同トラップを設置し、2009年、2010年の4月～10月に各6～7回調査した。

〔結果および考察〕

長崎県内においてイチゴ育苗期に発生したイチゴ寄生ハダニ類の土着天敵は、ハダニアザミウマ、ハダニタマバエ、カブリダニ類、ケシハネカクシ類であった。そのうち、県内広域で継続的に発生するのは、ハダニアザミウマとハダニタマバエであり、この2種がイチゴ育苗期における有望な土着天敵と考えられた。



図1 トラップ（熊本農研セ考案）

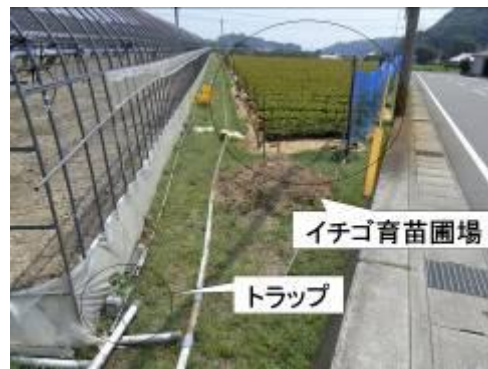


図2 トラップ設置状況